

「やってみよう！科学する心×いのち真ん中社会の保育実践」 最終報告レポート

幼保連携型認定こども園芹田東部こども園

松尾亜春奈

～はじめに～

保育をしていくなかで、子ども達が出会う自然物をどのように扱ったらいいのか、日々疑問にかんじていました。

園庭は遊具が大部分を占めていて、植物が自然に成長することは難しい環境。畑は園から少し離れていて、子どもが自由に行くことは難しい。子どもたちの自由な発見や観察の機会が十分に取れているのか…。そんな思いを抱えながら、今回の研修会に参加をさせていただきました。

～自園の環境～



①植物との出会いは園外に

身近な植物は、お散歩の道中で出会うことが多く、継続して観察をしたいと子どもが望んでも、子どもの気持ちをすべては叶えられない……。

1人ひとりの思いがあるため、時間を十分に確保することが難しい……。

②園庭の土は植物に向いていない

子ども達がせっかく散歩先で出会った自然物を園に持ち帰り、「育ててみたい!」と思っても、すぐに叶えられる環境がない……。

植物を育てるにはホームセンターで土や肥料を買ってこないといけない……。



③植物の終わりは人間の都合

栽培活動は基本的に**買ってきた土に苗を植える**

→生長したら収穫をしていただく→時期が来たら**片付けをする**というサイクル。植物はある程度になったら抜いて捨ててしまうものと子どもも職員も思っていました。

ですが、初めてのぐうたら村研修で山に入り感じたこと…



①植物って**循環**している！！

～落ち葉が微生物などの働きによって細くなり、土にかえっていく～

②植物の**匂いや味**を改めて実感

～視覚や触覚だけではなく、嗅覚や味覚もつかって自然を体験～

③子どもたちにも**このワクワク**を！！

～子どもたちにも私が感じたこの面白さを伝えたい～

園に帰ってさっそく土に触れてみることからスタートをしました。

畑での栽培がうまくいかなかったことから、年長児を中心に土を元気にしようと取り組んでみました。



(1)土の**観察**をしてみよう

子どもたちにぐうたら村の写真を見せたり、私自身が学んだことを伝え、「その倉庫に段ボールがあるから、それにしようよ！！」と段ボールに土を運び入れるこどもたち。

土を移動させる中で、子どもたちなりに観察をたくさんした様子。木の枝が入っていたり、木の葉が入っていることに気づき、大興奮！！

土の観察をしたことから→「葉っぱを入れるといいのではないか」という子どもの発見！！
さっそく落ち葉を探す旅に出発。



(2)葉っぱを集めに**神社**に行こう！！

「これは何のはっぱかな？」

「土の中に入ってたやつがなんの葉っぱかわかんないな・・・」

「木の枝も入ってたんだから、木についてる葉っぱが入ってるんだと思う・・・この辺に落ちてるやつとか！！」

目的があるお散歩だったからか、子ども達は神社につくなりさっそく落ち葉拾いに夢中です。寝っ転がって地面に顔を近づけ、落ち葉を観察してみたり・・・

子ども達の「やりたい！」「これをしたいからここに行きたい！」を叶えられたのではないかなと感じた瞬間でした。



いけー！！
パリパリパリー！！

(3)「ちびっちゃん虫って口も小さい？」

最初は集めてきた葉っぱをそのまま入っていた子どもたち。土の中には小さな虫がいて、その虫が葉っぱを食べることを伝えると・・・

「目に見えないくらいちっさいの？」

「じゃあ葉っぱもちっさくしないと！！」

「ちびっこなら口も小さいよ！食べやすくしないと！！」

子どもたちが目には見えない微生物のことを思いやる姿も、今までにはない姿でした。



(4)手の匂いが違うね！！

葉っぱをちぎった後に手の匂いを嗅いでみた子どもたち。

「なんか・・・甘いにおいする！！」

「遠足で採ったリンゴみたいなにおい！！」

「葉っぱの匂いって甘いんだ～」

と嗅覚も使って、自然を感じました。



〇もっといいお家にお引越し〇

連日の雨で段ボールがふにゃふにゃになり、土が染み出てしまった様子を見た子どもたち。

「もっと丈夫なお家に土をお引越しさせないと！！」

と倉庫から栽培で使用したプランターを出してきました。

「こっちなら安心して元気になれるよ！！」
と土に声を掛けながらお引越しをさせてくれました。



○葉っぱのある場所ってさ・・・○

「葉っぱさぁ境内にも落ちてたよね？」

「散歩に行かなくても集められるじゃん！」

「まってー！すてないでー！！」

今までは何気なくそこに落ちているものと思っていた葉っぱ。

今回の取り組みを経て、子どもたちの中で土を作る・元気にする材料に見方が変わりました。自然物への捉え方もこんなに変わるのかと驚きました。



土をまぜていると、幼虫を発見。

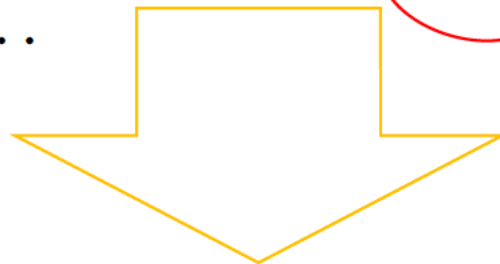
子どもたちも大喜び！！

以前までの子どもたちであればこんな事言っていたな・・・こんな風に今回もなってしまうのかなと私は考えていました。



「飼いたい飼いたい！！」
「虫かごに入れて観察しよ！」
と言いながらそのうち忘れますよね・・・

今回は・・・



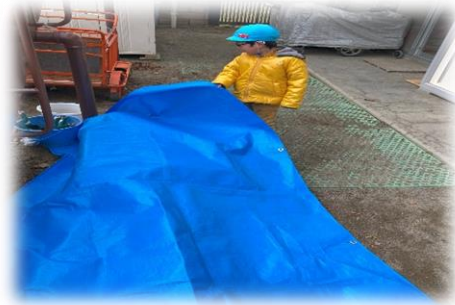
「今の土じゃ元気ないから大きくなれるのかな？」

「もう少し土が元気になるまで違う場所に居てもらおうよ！！」

「元気な土になったら戻そうね！！きっと大きくなるよ！！」

幼虫も生きていること 適した場所があること ただの観察対象ではなく大切にしようとする気持ち・・・そんなことに気づき始めた子どもたちの姿が見られました。

～今後の期待～



- ・年長児が中心となって活動を進めていたので、次の代にもつながるようにしたい。
- ・土ができた時には、子どもたちが見つけてきた種などを植えてみたり、栽培もしていきたい。
- ・栽培活動の中で、人間の都合で終わらせるのではなく、朽ちて次の芽が出るというサイクルも子どもたちと感じたい。

～今回の研修や機会を通じて感じたこと～

今回のぐうたら村での経験は、自分自身初めてのことが多く、とても刺激になりました。ぐうたら村に行かせていただくまでは、子どもたちの生活の中に自然をと思うとどうしても行き詰ってしまうばかりでした。「この活動でいいのかな・・・?」「子どもたちの中に経験として残っていくのだろうか・・・」とそんな思いを抱えるばかりでした。

ぐうたら村で森に入ったり、畑の植物の巡りや、生き物の住処を見て体験したことで、自分自身がとってもワクワクしたことの気持ちを大切にしたいと思いました。

そして、このワクワクが子どもたちにも伝わり、広がっていくといいなと感じました。

実際に園で土づくりに挑戦をしましたが、子どもたちが発する言葉や子どもたちの自然物に対する目が変わってきていることも、私自身とてもうれしい出来事でした。

植物の循環に少し人間が手を加える(手伝い)をし、人間も自然物も共に暮らしていくことができればいいなと感じています。

子どもたちにも経験を通して感じていてもらいたいと思います。